

## 来年の「全国植樹祭」盛り上げよう 県内で「木製地球儀」の展示リレー

来年6月に陸前高田市で開かれる「第73回全国植樹祭」の機運を盛り上げようと、県内市町村では前回開催県の滋賀県から引き継がれた「木製地球儀」の展示リレーが行われています。この地球儀は第52回山梨県大会で森林や林業の役割をイメージして作られたもの。11月17日には県から町への引き渡しが行われ、21日までの5日間、町中央コミュニティセンターで公開されました。本町が21番目となった同リレーは、今年7月の八幡平市を皮切りに約8カ月を掛け式典会場の陸前高田市に引き継がれます。



## ハロウィン行事で市街地にぎわう 仮装の子どもらが元気に街中練り歩く

“トリック・オア・トリート”。合言葉を唱える元気な声が街中に響きます。町商工会青年部（小野浩人部長）が主催する「やまだのハロウィン2022」が10月29日に行われ、仮装した子どもたち約350人が市街地を練り歩きました。スタンプラリーを取り入れたこのイベントは、町ふれあいセンターを出発し、ポイント地点となった周辺の店舗などからスタンプを押してもらおうと、お菓子や特典がもらえるという設定。悪魔や映画キャラクターに扮した子どもたちには楽しい特別な1日になったようです。

## 日本の密漁対策の現状は 海外研修員が漁協や養殖施設視察

日本の密漁対策の現状を学ぼうと、(独)国際協力機構で受け入れたアフリカ各国の研修員らが10月20日、三陸やまだ漁協を視察しました。来町したのは自国で違法、無規制に行われる漁業対策に従事する6カ国の行政機関の職員10人。研修では、密漁防止の監視体制などの説明を受け、監視船に乗り養殖施設を見学しました。漁協組織が無く、政府直轄で漁業者を管理するコンゴ民主共和国のパトリシア漁業監督官は「漁業者同士の監視が重要と感じました。政府に報告し啓発したいです」と話していました。



## 「工事用トラックって大きいな」 山田小1年生が“働く車”の乗車体験

“働く車”に乗ってみよう。11月10日、山田小学校（佐々木哲也校長、児童358人）の1年生66人は、建設現場で使われる作業用自動車の乗車体験を行いました。実際に社会のいろいろな場面で活躍する自動車を観察し、身近に存在する仕事を知ってもらおうと行われたもので、児童らは地元建設業者から説明を受けながら校庭に用意されたトラックやダンプなどに乗り、役割や構造などを学習。参加した森下結夏さんは、「教科書で見るよりすごく大きかったです」と迫力感到驚いた様子でした。



# 町のあだい

今月の題字 佐々木 <sup>あいと</sup>愛叶君 (船越小4年)



## 秋を彩る町民芸術祭 感性と創造性の共演が観衆魅了

町民の優れた芸術作品や文化活動の成果を発表する町民芸術祭が、10月から11月にかけて町中央公民館を主会場に開かれました。10月29日と30日に行われた展示部門では、書道や短歌、日本画、手芸作品など478点がずらりと会場に並べられ、訪れた人たちは感性と創造性に富んだ作品の数々に足を止め見入っていました。舞台部門は10月23日の「民謡と踊りの集い」を皮切りに吹奏楽やピアノ、ヒップホップダンスと日ごろの活動成果を大ホールで披露。出演者たちの熱演に客席から盛んな拍手が送られていました。

## 織笠コミュニティ きずな深めて半世紀 創立50周年 郷土芸能などで節目祝う

10月23日、織笠地区コミュニティ推進協議会(佐藤澤利勝<sup>かつ</sup>会長)の創立50周年記念式典が織笠コミュニティセンターで行われ、地区住民など約90人が出席しました。佐藤澤利勝会長は「昭和、平成、令和といろいろな出来事がありましたが、これからも織笠に住んで良かったと思われるよう地域のきずなを深めたい」とあいさつ。祝賀会では郷土芸能などが披露され、出席した皆さんは和やかに節目を祝い合っていました。同団体は昭和47年の創立から半世紀にわたり住民自治に取り組み、令和3年度には県の「元気なコミュニティ特選団体」に認定されています。

